

ICT街づくり推進会議 地域懇談会@近畿 議事要旨

1. 日時

平成26年2月17日（火）13:30～15:30

2. 場所

淡路市立サンシャインホール

3. 出席者

- (1) ICT街づくり推進会議構成員
岡座長、徳田構成員
- (2) ICT街づくり推進会議普及展開WG構成員
石塚構成員、齋藤(義)構成員、関構成員、武藤構成員
- (3) 大阪府箕面市における地域実証プロジェクト関係者
倉田箕面市長、田淵箕面市参事
- (4) 兵庫県淡路市における地域実証プロジェクト関係者
門淡路市長、山本(株)パソナグループ専務、吉永(株)パソナテック社長
- (5) 奈良県葛城市における実証プロジェクト関係者
吉村葛城市企画部長、米井葛城市情報推進課長、岡部(株)エクスレイヤー代表取締役CEO
- (6) 総務省
阪本情報通信国際戦略局長、金谷近畿総合通信局長(司会)、中村融合戦略企画官

4. 議事

- (1) 大阪府箕面市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
- (2) 兵庫県淡路市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
- (3) 奈良県葛城市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
- (4) 意見交換

5. 議事概要

- (1) 大阪府箕面市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
倉田箕面市長より、資料1に基づき説明が行われた。
- (2) 兵庫県淡路市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
門淡路市長より、資料2に基づき説明が行われた。
- (3) 奈良県葛城市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
吉村葛城市企画部長より、資料3に基づき説明が行われた。
- (4) 意見交換
主な発言は以下のとおり。

(大阪府箕面市における取組について)

【徳田構成員】

- 教育現場でのICT導入においては、授業を行う教師のリテラシーの向上がポイント。研修による教員全体のリテラシーの底上げに加え、リテラシーの高い中心的な教師がリーダーシップを執り、他の教師の苦手意識を解消していくような進め方も必要。

【岡座長】

- 児童見守りや教育現場におけるICTの導入により、学校・生徒・地域の三者を繋ぐ強固なコミュニティの醸成・再生が期待できる。例えば、小学生が高齢者にパソコンの使い方を教える機会を作るなど、学校・生徒と地域住民との更なる交流の場を設けることで地域の活性化につながるのではないかな。

【倉田市長】

- 他地域への成果の普及展開にあたっては、自治体側への働きかけだけではなく、先行事例を持つ自治体が一般の保護者に伝わる形でPRしてい

くことが重要。

- 今の取組をさらに高度化するためには、Wi-Fiの高速化やタブレット・電子黒板のシームレスな連携など技術的なブレークスルーが必要。生徒と教員の自発性は感じるので、市としては彼らがやりたいことを自由にできるようにするためのフィールドを提供することに注力していきたい。

(兵庫県淡路市における取組について)

【門淡路市長】

- コミュニティバス等の公共交通機関におけるICTの導入については、必ずしもすぐに全ての住民から支持を得られるとは限らず、住民の理解を得ていくための努力が必要。

【関構成員】

- 利用者アンケートで、医療機関との連携を期待する回答があったとのことだが、愛知県の豊田市ではコミュニティバスのICカードに本人の既往歴などの情報を持たせて不測の事態に備えているという事例もある。ICカードを今後より普及させていくためにも、医療というのは1つのポイント。

【山本専務】

- 農業におけるICTの利活用としては、センサーを用いて農場を監視してイノシシ等の鳥獣による被害を防ぐことや、都会に住みながらも遠隔で農場を見守れるような仕組みを構築することを今後考えていきたい。
- 買い物支援の取組では、タブレットだけで買い物を完結させるのではなく、コールセンターからフォローの電話をするようにしている。いずれはこのフォローもなくしていきたいが、利用の促進という意味ではまだまだこうした取組は必要。

【阪本局長】

- 高齢者の方々にICTを使って頂く工夫が重要。他の地域も同じ課題を抱えているはずなので、ぜひ知見を記録し、残してもらいたい。

(奈良県葛城市における取組について)

【武藤構成員】

- 災害対策基本法の改正に伴い、自治体において避難行動要支援者名簿を作成することとなったが、住民のニーズにはばらつきがあり、なかなか整備するのが難しいと聞いている。住民から提供された情報を他の公共サービスにも活用するなど、インセンティブを与えることも検討の余地がある。

【徳田構成員】

- 本事業は公民館が拠点となっているようだが、障害をお持ちの方や働いている方など、なかなか拠点にまで行けない人へのサポートも必要ではないか。
- 健康支援に関しては、取組を通じて住民の病気を減らして、ひいては医療費をどのくらい削減したというようなデータを出すことにより取組の意義を明らかにされることを期待したい。

【岡部CEO】

- 公民館に来るのが困難な方々については、スタッフが家庭にお伺いする形で一部対応している。ICカードさえ持っていれば、どこでもサービスを使えるという仕組みは必要だという認識だが、現時点ではコミュニティを再構築・再活性化するということが非常に大きなポイントであると考え、まずは拠点型でサービス提供する形をとっている。

【岡座長】

- 公民館というコミュニティの場を活用して、住民の積極的な参加を促すことで地域の活性化を図るというアプローチがすばらしい。参加したくない人までフォローすると大変な時間とコストがかかるため、まずは参加したい人のためにサービスを提供して、効果を高めていくということが第一歩。

(全体を通して)

【門淡路市長】

- (阪本局長からの中央省庁に求めるものは何かという質問に対して、)単年度予算では、実証プロジェクトの実施期間を十分に確保することが困難なため、複数年度にわたって実証プロジェクトを行うことができるような仕組が望ましい。

【倉田箕面市長】

- (阪本局長からの中央省庁に求めるものは何かという質問に対して、)今回のように海外と連携して実証を行おうとしたときに、必要な機器を海外側に置くのが難しいケースがあったので、そういった制約を取り除くことができればありがたい。

【岡座長】

- ICT街づくりには住民の参加が欠かせない。市長のリーダーシップは必須だが、そのリーダーシップに市民が同意・共感して、参画するという流れをいかに作り上げていくかが重要。
- ICT街づくり推進会議のメンバーに応援して欲しいことがあれば、是非とも総務省を通じてご意見を仰って頂きたい。
- 取組を広く周知するためには、自治体同士だけではなく住民に対して広報活動を行うことも大事。自分自身もテレビ等の色々な機会を通じてICT街づくりのPRを行っていきたい。

以 上